

北京市教育視察に参加して (7)

以前のブログにも記したように中国の教育制度は 6 - 3 - 3 制で日本の制度に近いものの、各段階での入学試験制度は大きく異なります。ここでは各段階での制度について概観しておきたいと思います。

北京市における教育事情を考える上で、重要な要素は「区(正式には市辖区)」という行政区分です。北京市には現在 16 の区があります。都心に位置する東城区、西城区、海淀区の 3 区は、教育資源が充実していると言われ、人気があります。このように重点小学のある学区は「学区房(シュエチーフアン)」と呼ばれています。

中国では、基本的には区内の居住届のある小学校に入学し、中学校(初級中学)は居住届のある「区」にしか進学できないことになっています。この点では日本の公立学校と同じですが、中国では届け出のある区と実際に住んでいる区が異なることが良く見られ、大学進学に有利な重点小学校のある区を選んでマンションを購入する傾向が強いことも事実で、不動産価格が高騰する要因になっています。また、外国籍の生徒や政府関係者・退役軍人の幹部などには一定枠の優遇入学制度もありますが、北京市政府は「2014 年度中学校入学意見」を発表し、優遇制度の廃止を行っています。

中国の学校は 9 月入学の 2 学期制で、小学校は月～金曜日の週 5 日制、授業時間は 8 時 00 分～16 時 40 分、1 コマ 40 分の授業が一日 7 コマ行われます。授業科目は、言語・文学、数学、物理、化学、生物、歴史、地理、政治、体育、音楽、美術、情報技術、一般技術、労働技術、青春期の心理と健康の 17 科目があります。この他に生徒が自由に選択する研究学習もあります。



北京市の16区 (Wikipedia を一部改変)



「数学」教科書表紙

次に、小学校を卒業する年の6月下旬、全国一斉に「初級中学学業水準試験(略称:中考)」が行われます。先に紹介したように中国の試験と言えば「高考」が有名ですが、日本の高校入学試験に当たる「中考」は特に「人生を分ける第一関門」とも言われます。つまり、この試験結果によって「普通高級中学」か「職業高級中学」へ進む*かが決まり、さらには大学進学率の高い高校(重点高校)に入学できるかが決まるからです。「高考」と同様に「中考」も基本的には全国统一試験ですが、実際は試験を実施する市・省・自治区によって試験問題の一部は異なります。

「中考」で特徴的なことは、試験科目は「言語・文学」「数学」「外国語」の3科目が共通科目で、文系が「歴史」と「政治」、理系では「物理」と「化学」の2科目を加えた「3+2」方式が採用されています。さらに、中国共産党の期待する学生像である「三好学生(身体・学業・思想)の3拍子そろった学生」に沿って、「体育」が試験科目に導入されていることです。「体育」の配点は30点で、いわゆる身体計測や体力テスト、「体育」の成績に加え、各自治体ごとに実技試験が課されます。たとえば、北京市の場合、男子は1000m走、女子では800m走が行われます。試験後、ほぼ2週間で結果の公表が行われ、その成績に基づき区内の中学校の進学先が決まります。学歴社会の中国では、政府の対応にもかかわらず、今でも「中考」においても生徒と保護者・家族の受験にかける過熱な状況が続いていると言えるでしょう。

*「普通高級中学」と「職業高級中学」の違いは、文字通り日本の普通科高校と職業科高校の違いであり、新規大卒者の就職事情の好転が見られず職業科高校の人気も依然として高いと言われ、両者の進学割合はほぼ5:5である。

参考文献

- 北京事務所:張調査員(2013)中国で社会問題化する学校教育 —北京市の小学校入学事情一、「CLAIR メールマガジン(2013年11月配信)」
- 外務省ホームページ「世界の学校を見てみよう」中華人民共和国 —中国の学校では今一、<https://www.mofa.go.jp/mofaj/kids/kuni/0601china.html>(2023年11月6日閲覧)
- 片岡 義則(2004)中国の高校入試における体育試験制度改革の動向、「神奈川県立外語短期大学」27、pp.25-46.

(つづく)
校長 石飛 一吉